



学校名：長野県栄村立栄中学校

氏名：市川志野

[担当教科：理科]

● 実践教科等：総合学習

● 時間数：2時間

● 対象：全校（中学1年生～3年生）

● 対象人数：49人

1 単元名

私達は開発途上国とどのような関係を築いていけば良いのか

2 単元の目標

- ① ザンビアの生活、文化、歴史などを知ることを通して、日本と似た部分、異なる部分に注目しながら、異なる文化や生活、習慣に親しみを持つ。
- ② ザンビアや日本、栄村の良い部分、課題を比較しながら考えることを通して、より広い視野で物事を考え、課題に取り組んでいく姿勢を培う。
- ③ 私達の生活が多くの国と繋がり合うことによって成り立っていること、日本が支援を通して開発途上国とのつながりを深めてきたことを知り、日本が開発途上国を含めた他の国々とのような平和的な関係を築いていくべきかについて考える。

3 ESD(持続可能な社会づくり)の視点

多様性	相互性	有限性	公平性	連携性	責任性
-----	-----	-----	-----	-----	-----

- ・異なる文化や生活、習慣について知る。（多様性）
- ・私達の生活が多くの国と繋がり合うことによって成り立っていることを知る。（相互性）
- ・日本が開発途上国を含めた他の国々とのような平和的な関係を築いていくべきかについて考える。（連携性）

4 単元の指導について

(1) 教材観

普段の生活において、海外とのつながりを感じる機会はなかなかないが、私達の暮らしは多くの国や人々とのつながりによって成り立っている。開発途上国が貧困に起因する様々な課題を抱える一方で、先進国と言われる日本にも人口減少、高齢化を始めとする多くの問題がある。特に長野県の栄村は日本が抱えるこういった問題が顕著に表れている場所であるとも言える。ザンビアという日本から遠く離れた国について考えることは、地域の問題とは大きく乖離しているようにも感じられるが、日本の過疎地域の中には、課題解決の糸口を発展途上にある国々との関係に見出し、活動している事例も見られる。また、これからの未来を担う子ども達が、自分たちの生活が世界とのつながりによって成り立っていることを知り、世界の様々な問題に目を向けることは、自分たちが暮らす地域や日本が抱える問題を解決するための力を培い、日本が他の国々と共に発展していくための平和的な関係を築くためにはどうすればいいのかについて考え実践していくことにもつながっていくと思われる。

(2) 生徒観

栄村の生徒は小学校中学校を通して、豊かな自然と地域のあたたかな支えの中でのびのびと育ってきている。未来を担っていく子どもたちは、より広い視野を持って、様々な課題に柔軟に取り組んでいくことが必要とされている。

事前に行ったアンケート1では、多くの生徒が将来海外へ行ってみたいと答えたが、海外に対してあまりポジティブなイメージを持っていない生徒もいることがわかる。特に、近年起こったテロなどの影響もあり、海外に対して危険だというイメージは強い。また、今回訪れたザンビアを含めたアフリカ地域は、生徒にとって遠く、あまりなじみのない場所である。また、紛争、貧困、病気などマイナスイメージを持つ生徒も多い。

①将来海外へ行ってみたいと思いますか。とても行きたい・・・22% 行きたい・・・51%
あまり行きたくない・・・26% 全く行きたくない・・・1%

②行きたくない理由・・・こわい、英語を話せない、日本が好き、安全じゃない、危ないなど

③アフリカに対するイメージ・・・暑い、動物がいっぱいいる、自然が多い、病気がこわい、貧しい、
危険そう、食べ物がおいしくないなど

【事前アンケート2】

- ・支援は必要だと思いますか 必要・・・100% 必要ない・・・0%
- ・なぜ日本は支援をしていると思いますか・・・困っている人がいるから助け合うのはあたりまえ、日本もいつか助けてもらわなきゃいけない時がある、発展したら貿易相手になる、輸入したりしているものがある。など

(3) 指導観

第2時では、なぜ日本が開発途上国へ支援をするのかについて、色々な視点から考え、自分たちの生活が世界とつながっていることを感じてほしい。また日本、栄村、ザンビアの良い部分や課題を比較しながら、互いが発展していくためにはどのような繋がりを作っていけばよいのかアイディアを出し合い、日本が開発途上国の国々とのような平和的な関係を築いていくべきかについて考えてほしい。

観点	よりよく問題を解決する資質や能力	学び方やものの考え方	主体的・創造的、協同的に取り組む態度	自己の生き方
評価規準	・他文化や人々の生活に興味を持ち、理解しようとする。 ・日本とザンビアが共に課題を解決する方法について考えられる。	・支援において大切なことは何かを考えられる。	・他の生徒とのグループワークを通して自己の考えを深め、課題を解決する方法について考えることができる。	・開発途上国の人々とのように向き合っていけばよいのかについて考えることができる。
評価方法	・授業での取組。 ・ワークシートへの記入。	・学習カードへの記入。 ・話し合いへの参加の様子。	・学習カードへの記入。	・学習カードへの記入。

時限	小単元名	学習のねらい	授業内容
1	アフリカはどのような地域なのだろうか。	ザンビアの良い部分、課題を日本と比較しながら考えるを通して、異なる	・アフリカに対して持っているイメージを発表する。 ・生徒のイメージに沿ってザンビアの自然、生

		文化や習慣に親しみを持つと同時に、貧困に関連する様々な問題に目を向ける。	活、文化について紹介する。 ・ザンビアの良い部分、課題について日本と比較しながら考える。 ・全体での共有。
2	私達は開発途上国とどのような関係を築いていけば良いのか。	日本人の生活が多くの国と繋がり合うことによって成り立っていること、日本が支援を通して開発途上国との繋がりを深めてきたことを知り、日本が開発途上国を含めた他の国々とのような関係を築いていくべきかについて考える。	・支援はなぜ行われているかを考える。 ・日本と開発途上国を含めた世界の国や人々とのつながりを知る。 ・支援において大切なことを考える。 ・ザンビアで行われている日本の支援について知る。 ・日本と開発途上国、互いの課題を解決するためのつながりについて考える。 ・私達が開発途上国とどのような関係を築いていけば良いのかについて考える。

7 授業事例の紹介

小単元名【私達は開発途上国とどのような関係を築いていけば良いのか】

(1) 指導案

(ア)実施日時 11月5日(木)第6限

(イ)実施会場 ランチルーム

(ウ)本時の目標

日本人の生活が多くの国と繋がり合うことによって成り立っていること、日本が支援を通して開発途上国とのつながりを深めてきたことを知り、開発途上国を含めた他の国々とのような関係を築いていくべきかについて考える。

(エ)指導のポイント

- ・生徒の意見をもとに海外への支援がなぜ行われているのかを考えさせる。
- ・過去の地震の時に受けた支援から、支援において大切なことは何かを考えさせてから、実際にザンビアで行われている支援について紹介する。
- ・生徒が考えた栄村、日本、ザンビアの良い点、課題点を振り返らせ、お互いに良い部分、課題があることに気付かせたい。

(オ)本時の展開

過程・時間	指導内容	学習活動	指導形態	指導上の留意点	評価 (評価規準・評価方法)
導入 5分	①世界の開発途上国と日本の支援	①日本が海外支援をしている理由について意見を出し合う。	全体	・アンケートをもとに色々な意見を取り上げる。	
展開 35分	②日本と世界のつながり	②パワーポイントを見て、日本と世界のつながりを知る。 (a)私たちの生活とアフリカとのつながり (b)東日本大震災で受けた支援 (JICA 駒ヶ根所長さんのブータンで体験されたお話) (c)戦後の支援 (d)ザンビアで活躍する看護師さん	全体	・生徒の意見を確認しながらパワーポイントを使って紹介を行う。 ・(a)では、身の周りの身近な物をいくつか挙げ、どれがアフリカと関係しているか予想させる。	・ワークシートへの記述

- ・助けられ、助ける関係を築けば共に発展すると思う。相手国の文化を敬う。
- ・今日、色々な意見を聞いて、日本にもザンビアなどのアフリカにもたくさん課題があることを知って、自分の国だけでなく、協力し合うことでより発展させられることができるのではないかと思います。課題はたくさんあってもそれを越えられるような、良い部分もたくさんあると私は思います。なので、お互いに意見を交わせることができる関係を築いていくといいと思います。栄村でもいろいろな意見を取り入れて、もっと課題を減らせたらいいいと思います。
- ・今でも苦しんでいる人達に自分たちができる最大限のものは何だろう？と考えさせられた。

(3)使用教材

授業1 「アフリカはどのような地域なのか」 パワーポイント資料の一部

生徒が考えたアフリカの「暑い、動物がいっぱいいる、自然が多い、病気がこわい、貧しい、危険そう、食べ物があまりおいしくなさそう」といったイメージについて実際はどうか、現地で撮った写真をもとに紹介を行った。中学校の授業の様子は撮影した動画を流した。



授業2 「私達は開発途上国とどのような関係を築いていけば良いのか」 パワーポイント資料の一部

日本と開発途上国のつながり 1 10円玉 ザンビア 2 携帯電話 ザンビア コンゴ 3 チョコレート ガーナ 4 ダイヤモンド 南アフリカ 5 アイスクリーム マダガスカル 1～5の中でアフリカと関係する物は？ 正解→1～5全て	海外で活動する日本人 安藤政子さん 看護師としてザンビアの医療施設で働き、エイズなどの病で苦しむこの地域の医療支援、HIV感染予防に関する教育活動を行っている。	医療施設の拡大・充実								
日本の支援で作られた給水施設 この地域では汚染された古い井戸を使うが、遠くまで水を汲みに行っていた。	地下の湧き出しからきれいな井戸水をくみ上げる施設。現在は地元の人によって管理、運営されている。	<table border="1"> <tr> <th>日本の良いところ</th> <th>栄村の良いところ</th> </tr> <tr> <td>治安が良い、技術が発達している 発展している、四季がある ゴミ捨てが少ない 交通が整備されている 伝説を大聞にしている 自然が多い、戦争がない</td> <td>やさしい人が多い 自然が豊か スキー場がある 空気がきれい</td> </tr> <tr> <th>日本の課題</th> <th>栄村の課題</th> </tr> <tr> <td>他の国との関係 若者、税金が多い 観光地を壊やす 少子高齢化、政治、原発 人手不足、環境問題 税金、新しい法律</td> <td>人口減少 高齢化 産業が少ない お店が少ない 観光客が少ない 自然災害対策</td> </tr> </table>	日本の良いところ	栄村の良いところ	治安が良い、技術が発達している 発展している、四季がある ゴミ捨てが少ない 交通が整備されている 伝説を大聞にしている 自然が多い、戦争がない	やさしい人が多い 自然が豊か スキー場がある 空気がきれい	日本の課題	栄村の課題	他の国との関係 若者、税金が多い 観光地を壊やす 少子高齢化、政治、原発 人手不足、環境問題 税金、新しい法律	人口減少 高齢化 産業が少ない お店が少ない 観光客が少ない 自然災害対策
日本の良いところ	栄村の良いところ									
治安が良い、技術が発達している 発展している、四季がある ゴミ捨てが少ない 交通が整備されている 伝説を大聞にしている 自然が多い、戦争がない	やさしい人が多い 自然が豊か スキー場がある 空気がきれい									
日本の課題	栄村の課題									
他の国との関係 若者、税金が多い 観光地を壊やす 少子高齢化、政治、原発 人手不足、環境問題 税金、新しい法律	人口減少 高齢化 産業が少ない お店が少ない 観光客が少ない 自然災害対策									

* 生徒のアンケート結果をもとに作成

(4) 参考・引用資料等

『外務省ホームページ～わかる！国際情勢 Vol.37～』

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/pr/wakaru/topics/vol73/>

『NHK ニュースおはよう日本ホームページ～モンゴルにコシヒカリを売り込む～』

<http://www.nhk.or.jp/ohayou/marugoto/2014/01/0115.html>

『国際理解教育実践資料集』 JICA 教材作成実行委員会編集(2014 年)

8 単元をととした生徒の反応/変化

授業を行う前は、生徒の多くがアフリカに対してマイナスイメージが強く、中には拒絶ともとれるような意見もあったが、第1時の授業では、ザンビアの良い部分をたくさん見つけられたという感想がたくさん見られた。また、自分たちが普段体験することのない様々な問題についても取り上げる生徒が多かった。特にザンビアの子ども達が貧困によって厳しい生活を送っていることに対する反応が多く見られた。

また、日本が行っている支援についてもほとんど知らなかった(過去の支援の経験から支援＝お金や物を送るというイメージが強い)ため、第2時の授業では、現地に日本人が実際に行って技術を伝えるという支援があることや、現地の人達が自立することを目標に支援が行われていることが、とても新鮮であり、印象深かったようであった。第1時の授業の中で、小さな子ども達が病気や栄養不足で亡くなっていく現状に心を痛めていた生徒は、「日本がそのことに役だっていると知ってうれしかった」という感想を書いた。

第2時の授業の後半において、栄村、日本、ザンビアの良い点、課題について比較しながら互いが発展するための繋がりについて考える活動では、子ども達はグループで話し合いながら、様々なアイデアを考え出していた。この活動後の感想には、互いに良い部分は生かし、課題は補い合いながら共に支え合う関係を築いて行ければ良いという感想が見られた。授業を通して、自分たちは多くの国に支えられながら、また他の国を支える力を持っていることを感じたようであった。

9 授業実践全体の成果と課題及び課題の改善策

【成果】

- ・アフリカに対してマイナスイメージの多かった生徒が、ザンビアの人々の姿や生活、自然の紹介を通して、アフリカを前向きに捉える姿が見られた。
- ・日本が他の国によって支えられ、日本も支援等により他の国の支えになっていることを知り、互いを認め合いながら支え合える関係の大切さについて考える姿が見られた。
- ・生徒が互いの意見を交換する中で、新たな気づきがたくさんあった。

【課題】

- ・今回の授業は全校を対象としたため、それほど多くの時間が取れず、ザンビアにおける研修の一部しか扱えなかった。
- ・時間の少なさもあり、生徒がじっくりと考える時間や互いの意見を交流させる場があまりとれなかった。

【課題の改善策】

- ・今回は扱えなかった研修で得た教材を今後総合学習や教科の授業において実践していきたい。
- ・学級ごとの授業を行い、生徒の意見をもっと交流させながら、さらに考えを深めたり、共に実践できることを探していきたい。

10 教師海外研修に参加して

改めて振り返ってみると、この研修へ参加する前の私は、授業を受ける前の生徒とそれほど変わりはないように思う。テレビや新聞、インターネット、そして色々な場所で見かけていた募金と呼びかけるポスターやビラから得ていた情報は、アフリカのほんの一部分でしかなかったことを知る毎日だった。また、日本が行っている支援についても、やはり子供たちと同様に分かっているようで分かっていなかったことを知った。今回子供たちと共に最も考えたかったことは、歴史も文化も生活も違う人々とうまく向き合っていけば良いのかについてであった。その気持ちは、ザンビアであたたかく迎えてくれたたくさんの人々や、人なつっこく笑顔で手を振ってくれた子供たちの姿を通して更に強くなった。授業の中で、子供たちがザンビアの様子や人々に心を寄せ、その課題について真摯に考えてくれた姿は私にとって大きな喜びとなった。これからもこの課題について、私自身に問いかけながら子供たちと考えて行きたい。